

地域資源を活用したコミュニケーションデザイン研究

灘・ミュージアムロードの事例

RESEARCH OF COMMUNICATION DESIGN BY UTILIZING OF LOCAL RESOURCES
The Case of "Museum Road", Nada Ward

.....

荒木 優子 デザイン学部ビジュアルデザイン学科 教授
廣中 薫 デザイン学部ビジュアルデザイン学科 准教授
田頭 章徳 デザイン学部プロダクトデザイン学科 助教
萩原 こまき デザイン学部ビジュアルデザイン学科 実習助手

Yuko ARAKI Department of Visual Design, School of Design, Professor
Kaoru HIRONAKA Department of Visual Design, School of Design, Associate Professor
Akinori TAGASHIRA Department of Product Design, School of Design, Assistant Professor
Komaki HAGIWARA Department of Visual Design, School of Design, Assistant

.....

要旨

本研究は、神戸市・灘区の通称「ミュージアムロード」を中心としたコミュニティの潜在的魅力と文化・観光資源を活用し、地域活性のためのコミュニケーションデザインの研究と実践をとおして、内外に地域の魅力発信を行うことを目的としている。その中で、地域コミュニティにおけるアートやデザインへの理解促進と、実社会をフィールドにしたデザイナーやアーティスト育成のための教育活動の展開を目指している。

2009年より「アートとデザイン」をキーワードに、大学が積極的に地域・行政・企業と連携を深めるべく、該当地域でのデザインワークショップの実施や、コミュニケーションペーパーを発行するなど、さまざまなコラボレーションの機会創出を行ってきた。その結果、ミュージアムロードの阪急高架橋壁画ペイントや、王子動物園内の重要文化財である旧ハンター住宅を活用したイベント、地元企業の空きスペース活用した展覧会企画などの協働事業が始動した。

Summary

The primary purpose of this study is introducing the attractiveness of this region to both inside and outside through the study and practice of communication design by utilizing the potential charm, culture and tourist resources of the community centered in Nada Ward, Kobe city known as "Museum Road". We aimed at progress of the further understanding of design and art in the local community and development of education thorough the activities of designers and artist in the practical field.

We have created the opportunities to intensify the different types of collaboration with community, local government and companies actively since 2009, such as holding design workshops and publishing communication magazine, under the keywords, "art and design". As a result, some collaboration projects started to realize, such as wall paintings under the elevated structure of Hankyu Railway on the Museum Road, events in the former Hunter House that is an important cultural property located in OJI Zoo Park, and exhibitions utilizing the vacant space of the local business.

1) 研究目的

本研究を通して大学と地域の結びつきを深め、地域コミュニティにおけるアートやデザインへの理解促進を行うとともに、実社会をフィールドにデザイナーやアーティスト育成のための教育活動を展開する。そして大学における社会貢献として地域の魅力を発信することが目的である。

2) コミュニケーションペーパー「O.Zcafe」の発行

地域と王子動物園を結ぶコミュニケーションペーパーとして、その時々テーマを設定し2010年より「O.Zcafe」を定期的に発行している。2012年春号は、「ツーリズムのデザイン」をテーマに、丹波篠山で限界集落の再生など多角的に事業を展開するNPO法人「NOTE」をはじめ、地域のツーリズムに関連するさまざまな活動を行うプロデューサー取材した。2013年春号は、「神戸の創造職人」のテーマで気鋭のパン職人をはじめ神戸でものづくりを実践するクリエイターを取りあげた。冊子は、王子動物園をはじめミュージアムロード界隈の各施設や区役所等で配布を行った。



図1) 左:O.Z cafe vol.3/右:O.Z cafe vol.4

3) サステイナブルデザインワークショップ

毎年恒例の灘区民祭「六甲ファミリーまつり」に出展し、地域の子どもたちを対象にサステイナブルデザインワークショップを開催した。まつりに来た小学生以下の子どもたちが気軽に参加できる内容で〈①神戸市内の印刷所から損紙の提供を受け、その紙を使ってグリーティングカードをデザインする ②廃材段ボールを使用して動物のお面を作る ③リサイクル T シャツに絵を描く〉を実施し、のべ100名の参加者があった。



図2) 左:ワークショップ風景/右:完成した作品と共に

4) オリジナルデザイングッズの制作

「Zoo & Museum」のテーマで、動物をデザインしたメッセージカードとぬりえポストカードを制作。ミュージアムロードで今後開催予定の事業に使用する。また、2013年11月に開催される「KOBE パンのまち散歩(中央区)」に合わせて、神戸の観光地と有名ベーカリーのパンの絵はがき集「まち・神戸」と「パン・神戸」を制作し、事業企画委員会に提案した。



図3) 左:動物メッセージカード/右:「まち・神戸」、「パン・神戸」絵はがき集

5) ミュージアムロード阪急高架橋壁画

灘区役所まちづくり課のコーディネートで、「灘・文化軸倶楽部」より依頼を受け、県と市の助成を受けた地域活性化事業としてミュージアムロードの阪急電車高架橋の壁面をビジュアルデザイン学科生と地元の子どもたちとでペイントを行った。

美術館のキャラクター「美かえる」と動物園の人気者のパンダをそれぞれ東西の壁面に配した原画は、ビジュアルデザイン学科生がデザインした10作品の中から、灘区総合芸術祭(2012年11月2日)の市民投票で選ばれたものである。2012年11月23日に、神戸市と兵庫県、地域住民による完成式典が執り行われた。



図4) 左:地域の子どもたちとの制作風景/右:完成式典



図5) 左:西側完成画/右:施工記念プレート

6) 旧ハンター住宅

王子動物園内の旧ハンター住宅は神戸の最大級の異人館で国指定重要文化財である。もとは北野町ハンター坂にあった建物であるが昭和38年に移築された。一昨年に外観の修復を終えその活用については、これまで地域と行政、動物園とで議論が交わされ、洋館の雰囲気を活かしたカフェやギャラリーへの転用、演奏会等のイベント活用など、さまざまなアイデアが出された。そのような動きの中で、具体的活用に向けての事例づくりとして、大学主催の企画を行った。2013年11月23～25日の3日間にわたり館とその庭園を使用して、〈①クリスマス1ヶ月前のオーナメントづくりのワークショップ ②来館者の似顔絵をイラストコースの学生が描く似顔絵コーナー ③クリスマスをテーマにしたアートの展覧会 ④摩耶山活性化のポスター展〉を開催した。

1ヶ月後の12月23日には、クリスマスのイベントとして、〈①先のワークショップで制作したオーナメント作品で飾ったクリスマスツリーの前の撮影会 ②撮影した写真を添えて特製クリスマスカードを作るワークショップ ③似顔絵コーナー ④作品上映と展示〉を行った。

また、両イベントとも地元企業の協力で大人には暖かい珈琲を、子どもたちにはオレンジジュースをサービスするカフェも学生たちが運営した。(ドリンク提供:萩原珈琲株式会社)

年3回の特別公開以外は館内に入ることができなかったが、このイベントでは4日間でのべ300名の来館者があり、活用事

例として次に繋げることが可能となった。



図6) 左:展示風景/右:ワークショップ風景

7) シマブン BB プラザ

ミュージアムロード添いの私設美術館を含む複合施設BBプラザを運営するシマブンコーポレーションは、地元企業の代表格で、これまでさまざまなかたちで地域貢献を行っている。同施設のメインエントランスフロアの空きテナントスペースを、次期テナントが決まるまでの条件付きでの活用提案を行い、作品展示や実験的スペース「BB サテライト」としての使用をはじめめている。

2012年11月には、「摩耶山魅力アップアイデア」と題して、摩耶山をテーマにした30点のポスターを展示し、2013年1月には、「春よ、来い。」グラフィックス展を開催した。



図7) 左:「摩耶山魅力アップアイデア」ポスター展フライヤー/右:「春よ、来い。」グラフィックス展フライヤー

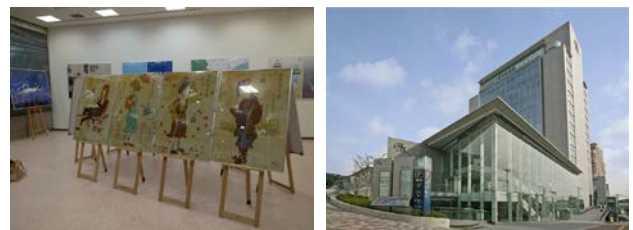


図8) 左:「摩耶山魅力アップアイデア」展示風景/右:シマブンBBプラザ

8) 王子動物園のiOSアプリ「OjiZoo APP」(β版)

AppStore からダウンロードが可能な王子動物園の iOS (iPad と iPhone) のアプリの試作(β版)を行った。このアプリは、子どもでも楽しめる実際の動物園をもとにした 3D 地図をベースに、直感的なオペレーションと明快なグラフィックによるデザインを目指している。王子動物園のデジタルガイドとして地図機能のほか、飼育動物に関する楽しく学ぶことができる。

制作においては、プログラミングとグラフィックのそれぞれの分野を専門とする研究協力者として、ルカス・ソヴィンスキ氏とピョートル・スモラフスキ氏に参加いただいた。

プログラミング分野においては、〈①アプリのベースシステムを制作するためにさまざまなレンダリング方法を研究し、パフォーマンス向上のために負荷の高いエフェクトは制限をかける操作をおこなう ②アプリのコアとなるiOSのオリジナル3Dレンダリングエンジンの開発 ③Objective-C によるプログラミングとデバイスチェック〉を行っている。今後レンダリングエンジンにUIを重ね3Dマップとのリンクを行う。さらにGPSナビゲーションとユーザーインターフェイスのデザインをすすめる。

グラフィック分野においては、〈①グラフィックコンセプトを検討。動物園で飼育されている動物のベースデザイン、衛星画像を参考に建物の原型モデルを制作 ②動物園の地図制作。実際の動物園のVector画像を制作し3D地図のモデルを制作 ③3D地図に置く3Dオブジェクト(建物・樹木)を制作〉を行っている。今後は動物のモデルを増やし、UI、ロゴ、アイコンのデザインと、3Dモデルとテクスチャーの改善、スカイボックスや動物園周辺のモデルの改善が必要である。



図 9) β版スクリーンショット。3D は Blender でテクスチャーは Photoshop/zBrush で制作した。



図 10) 動物の 3D モデル コンセプトイメージ

9) まとめ

兵庫県立美術館と神戸市立王子動物園を結ぶ南北約 1 キロの坂道が『ミュージアムロード』と命名され早くも 2 年が経過した。その間、JR 灘駅を挟んで南の美術館側と北側の動物園側のミュージアムロードでは、地域的な盛り上がり温度差が感じられたのだが、2013 年 11 月に原田の森ギャラリー西館に横尾忠則現代美術館がオープンし、本研究の一環で地元と共に取り組んだ阪急アーチ橋壁画が完成するなど、ここに来て活性化に向けての気運が高まって来た。

本研究の前身として 2009 年より同地域でさまざまな活動を展開し、「アート&デザイン」をキーワードに積極的に地域や行政、企業に働きかけコラボレーションの機会を創出してきた。今現在、それらが徐々に実を結びつつあると感じている。今後、同様の地域と大学との連携がますます重要になるだろう。

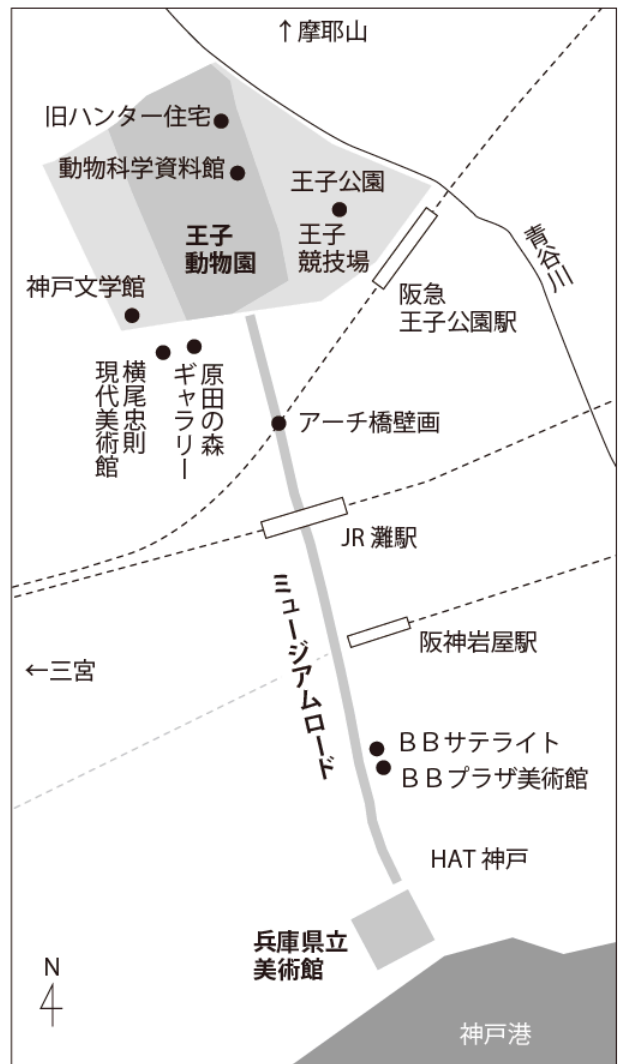


図 11) ミュージアムロード